

## 9 行列の階数と連立 1 次方程式

演習 9.1 次の行列の階数を求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} -1 & -2 & 1 \\ 3 & -1 & -2 \\ 1 & -5 & 0 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 4 & -2 & 1 \\ -2 & 1 & 3 \end{pmatrix} \quad (3) \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 & 0 \\ 2 & 0 & 2 & 1 \\ 1 & -2 & 3 & 1 \\ 3 & -2 & 5 & 2 \end{pmatrix}$$

連立 1 次方程式  $Ax = b$  があるとき,  $b = 0$  ならばその方程式は斉次, そうでないときは非斉次という.

斉次連立 1 次方程式  $Ax = 0$  の場合, 少なくとも  $x = 0$  は解 (これを自明な解という) なので, 「解なし」ということはない.  $n$  を  $A$  の列の数 (= 未知変数の数) とし,  $r = \text{rank } A$  とすると, 解の自由度は  $n - r$  となる. ここで,  $x_1, x_2$  を二つの解とすると,  $Ax_1 = Ax_2 = 0$  だから, 任意の定数  $c_1, c_2 \in K$  に対し

$$A(c_1x_1 + c_2x_2) = c_1Ax_1 + c_2Ax_2 = 0$$

となり, 線形結合  $c_1x_1 + c_2x_2$  も解になる. 解の自由度が  $n - r$  であることから, 斉次方程式  $Ax = 0$  はある  $n - r$  個の線形独立な解の組  $a_1, \dots, a_{n-r}$  をもち, 一般解は

$$x = c_1a_1 + \dots + c_{n-r}a_{n-r} \quad (c_1, \dots, c_{n-r} \text{ は任意定数})$$

と書ける (ただし,  $r = n$  のときは解は自明な解のみ). このような  $a_1, \dots, a_{n-r}$  を  $Ax = 0$  の基本解という.

演習 9.2 次の斉次連立 1 次方程式の基本解を求めよ.

$$\begin{cases} x_1 - x_2 + x_3 - 3x_4 + 3x_5 = 0 \\ 3x_1 - 2x_2 + 5x_3 - 5x_4 + 7x_5 = 0 \\ 2x_1 + x_2 + 8x_3 + 7x_4 - x_5 = 0 \end{cases}$$

一般の (斉次とは限らない) 連立 1 次方程式  $Ax = b$  について, 右辺を 0 にした斉次方程式  $Ax = 0$  の基本解ともとの方程式  $Ax = b$  の一般解には次のような関係がある.

まず,  $Ax = 0$  の基本解を  $a_1, \dots, a_{n-r}$  とする. もし  $Ax = b$  に解が存在するなら, そのうちの一つを  $g$  とすると,  $Ax = b$  の一般解は

$$x = g + c_1a_1 + \dots + c_{n-r}a_{n-r} \quad (c_1, \dots, c_{n-r} \text{ は任意定数})$$

と書ける. (これは次の問題を解いた結果の解釈に役立ててください).

演習 9.3 次の連立 1 次方程式の一般解を求めよ.

$$(1) \begin{cases} x_1 - x_2 + x_3 - 3x_4 + 3x_5 = 1 \\ 3x_1 - 2x_2 + 5x_3 - 5x_4 + 7x_5 = 0 \\ 2x_1 + x_2 + 8x_3 + 7x_4 - x_5 = 1 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} x_1 - x_2 + x_3 - 3x_4 + 3x_5 = 2 \\ 3x_1 - 2x_2 + 5x_3 - 5x_4 + 7x_5 = -2 \\ 2x_1 + x_2 + 8x_3 + 7x_4 - x_5 = 1 \end{cases}$$

連立 1 次方程式の解全体を幾何的にみた場合, 自由度というのは解全体がなす図形の次元 (解が動ける次元) を表している (このことを理解するために, 次のような問題をやってみてください).

演習 9.4  $xyz$  空間座標に関する方程式

$$\begin{aligned} a_{11}x + a_{12}y + a_{13}z &= b_1 \\ a_{21}x + a_{22}y + a_{23}z &= b_2 \\ a_{31}x + a_{32}y + a_{33}z &= b_3 \end{aligned}$$

で与えられる三つの平面が, (1) ちょうど一点を共有するための条件, (2) ちょうど一本の直線を共有するための条件, (3) 一つも共有点をもたないための条件, をそれぞれ行列を用いて述べよ.